

LIVE IN TOKYO

RHYTHM FOR CHANGE

イベント概要

8月7日(土)~15日(日)の9日間、『品川イーストワンタワー 2階エントランス』・『品川セントラルガーデン』の2箇所に無料会場を設け「LIVE IN TOKYO ~Rhythm for Change~」を開催します。今年のテーマは「Change」。来場者・出演者・関係スタッフ、このイベントに参加いただいた方々が、音楽を通じて新たな希望や夢を感じていただき、それをほんの少しでも自分の周りに広げてほしい。そんな願いを込めて、50組のミュージシャンが熱演を繰り広げ、品川より音楽を通じてメッセージを発信します。この「LIVE IN TOKYO」は今年で7年目を迎え、品川の夏の風物詩となりつつあります。今年も日本を代表するジャズミュージシャンが多数出演し、ジャズ・ポサノパ・タンゴ・クラシックからビッグバンドまで、様々な音楽が無料で楽しめます。また、期間中は例年と同様に会場受付に募金箱を設置し、集まった募金は全額、(財)日本ユニセフ協会を通じてユニセフに寄付され、世界の子どもたちのために役立てられます。

コンサート出演者紹介

河波浩平 (vo) 8/7(土)出演

埼玉県川越市の尚美学園大学にて、ジャズやポップスを学び、在学中よりリズムやハーモニーに関しての独自の研究を重ね、ジャズはもとよりクラブミュージックやソウルミュージック、ポップスなど、幅広いジャンルの音楽活動を手掛ける。また同時期、基本的な発声を声楽家久保和範氏に師事し、氏との実験的な試みの中で生まれた声の特性を元に、ヴォイスパフォーマーとしての活動も行い、エレクトリックジャムバンド「WAVE FLATS」のリーダーを務める中、キーボードマガジン「プロ直伝シリーズ：坪口昌哉特集」に参加するなど、高い評価を得ている。2004年より本格的にジャズシンガーとしての活動を開始し、同年3月に行われた「第23回浅草ジャズコンテスト」において、ボーカル部門グランプリを受賞。伊原康二、田鹿雅裕、三木俊雄、片岡雄三など、様々なミュージシャンと共演をし、全国からの読者投票によって決定される「スウィングジャーナル人気投票」では、2006年度初登場第7位にランキングされている。現在はジャズはもとより、オリジナル曲の発表も精力的に行い、2007年6月に結成したラテンジャズグループ「LATINAMI」では、「MotionBlueYokohama」に出演するなど、その勢力を広げている。



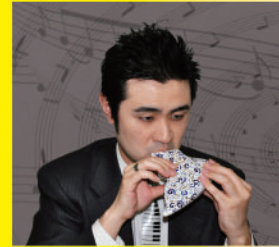
田口勝治 (g) 8/8(日)出演

12才からギターを始め、17才よりヤマハ講師や演奏等プロ活動を始める。18才で東京、武蔵野音楽学院に入学。ギター、理論、アレンジを学び、その後都内でライブ活動を開始する。ジャズ以外にも活動の幅は広く、谷川俊太郎氏の詩をモチーフに行われたコンサート、名古屋フィルのコンサートマスター後藤龍伸氏(vln)とのユニット、その他多数のジャズやフュージョングループに参加し、多方面で活躍。'97年渡米、NYに滞在しライブ活動を行う。2001年ギブソン・ジャズギター・コンテストに於いてベストギターリスト賞を獲得。2003年ニューヨークでスティーヴ・ラスピナ(b) デヴィッド・キコスキー(p) アダム・ナスバウム(ds) シーマス・ブレイク(sax)とレコーディングを行いCD『Out of The Line』発売。他に『First Mission』『One Four Seven』(井上淑彦(sax)参加)のアルバムがあり2008年にはCD『Momen't Notice』発表、ツアー及びレコーディングと全国的に活躍中。



安保 徹 (ts) 8/8(日)出演

18歳でデクスター・ゴードンを聴き、ジャズを知る。20歳でテナー・サクスを始め、後に大森明氏に師事。現在は、自己のバンド Ambo UNITのほか、小林桂(vo)+G 5等で活躍中。2008年12月17日には、1998年6月30日と7月17日に行われた六本木ジャズクラブ「バッシュ」での自熱した伝説のライブを、2枚組コンプリート盤として再編成した「LIVE AT BASH AGAIN!」を発売。2010年6月23日には、最新CD「AMBO UNIT with BOB MOVER」を発売。



高木陽光 (オカリナ&sax) 8/8(日)出演

オカリナとサクスの奏者・指導者。サクスでは、数々のコンテストで金賞受賞。クラシック、ジャズ、クラブ音楽、民俗音楽、ラテン、ロック、童謡、映画音楽など幅広い音楽性で、演奏・指導活動を行っている。オカリナでは、2006年夏に東京電機大学で、オカリナを使用した公開講座を実施し、同大学の管弦楽団と共演。また築地本願寺でのパイプオルガンとも共演。また2007年春には、在韓日本大使館のホールやKTビル(韓国大手通信会社)でコンサート、淑明女子大学にて講演を行い好評を得た。2008年夏には、在カンボジア日本大使館等の後援を得て「日本カンボジア友好年事業」としてカンボジア公演とオカリナ体験教室を実施。9月には、宮城県松島の国宝瑞巖寺山内「円通院」の「観月の宴」でも演奏。10月には韓国オカリナ音楽協会の朴会長とその門下生約30人を日本に招き、高木陽光とその門下生との共演による「日韓友情音楽祭」を実施した。2009年夏には、台湾で2回のコンサート及びMusic Korea 2009のメインステージで演奏し、好評を得た。現在、日本音楽指導員認定協会の認定指導員として3教室と2つの会を持つ。 URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~leoworldmusic/>

続木 徹 (pf) 8/9(月)出演

'75年、新宿 PIT INN など都内のジャズクラブでプロ活動を開始。'84年、リーダーアルバム「ネプチューン」を残す。'85年、山岸潤史、土岐英史らと「チキンシャック」を結成。通算10枚以上のアルバムを発表(メルダック)。ジャズのみならず黒人音楽全般に精通した演奏をし、またシンセサイザー、コンピューターを使ったレコーディングにも活動範囲を広げる。同時にアメリカでもレコーディング活動をはじめ、内外のアーティストと数多くのアルバムを残す。90年代に入ってからデビュー・T・ウォーカー、ジェームス・ギャドソン、山岸潤史らと「バンド・オブ・プレジャー」を結成。3枚のアルバムを発表(フォーライフ)。自己のジャズトリオ他、「向井重春ブラジリアンセッション」、実弟の続木力(ハーモニカ)との「続木ブラザーズ」、京都のフォークシンガー豊田真造とのデュオ等ジャンルにとられない活動を続けている。



かなさし 庸子 (vo) 8/9(月)出演

1987年に渡米し、ジミー・スコット氏にジャズボーカルを師事。レジー・ワークマン氏のワークショップでフリー・インプロビゼーションを学ぶ。宮崎千里奈氏に声楽を、ガリー・ノーデン氏にボーカルコーチをそれぞれ師事。ミリアム・グリーン氏に英語発音を師事。国連テリグイト ダイニングルームでのジミー・スコットのオープンニングをはじめ、ニューヨーク及びニューヨーク近郊のクラブへも多数出演する。1996年に帰国した後は、関東を中心にライブハウス、ホテル等で活動する他、書家、画家など様々なジャンルのアーティストとコラボレーション。詩の朗読などを精力的に行い、子供向けに解説つきのジャズコンサートも行っている。2001年10月にはCD「Clouds in green~碧」をリリース。ジャズライブの年間ベストCD第9位に選出される。2006年8月に2枚目のCD「Alone Together」をリリース、日本人離れしたアドリブ感と声の美しさで好評を得ている。



吉野ミユキ (as) 8/9(月)出演

埼玉県出身。10歳からアルト・サクスを始める。11歳から秋本康夫氏に師事。日大芸術学部在学中にジャッキー・マクリンの音楽に出会い、ジャズに目覚める。大森明氏に師事。現在、自己のリーダー・グループで都内近郊のライブ・ハウスで活躍中。作曲とアレンジも手掛ける。ウォームな音色と誠実なプレイには定評がある。またMANHATTANスクール、DJANGOスクールなどで講師を務め、後進の育成にも力を注いでいる。2004年8月にエイベックスより、女性ビッグバンド「Blue Aeronauts Orchestra」のCDとDVD「1st Flight」をリリース。TVやジャズ・フェスティバルなどに出演し好評を得る。2005年4月、中央アート出版社より「アドリブ集中トレーニングはじめるよ!ジャズ・アルトサクスの 第1巻(CD付)」を出版。2007年同シリーズ「第2巻」と「フレーズ集」を出版。2008年、スウィング・ジャーナル誌の「ジャズメン読者人気投票・アルトサクスの部門」に初ランクイン。2009年8月、初のリーダーアルバム「Straightaway」をリリース。今後の活躍がますます期待される女性サクスのプレイヤー。



上田裕香 (vo) 8/10(火)出演

中学生までは音楽にあまり興味がなく、絵を描き続けて美大を目指す。16才から音楽の魅力に目覚め、独学でBlues Rock、Soulなどを歌い始める。19才でシアターブルック等を手がけたプロデューサーのバンドに参加し、数々のライブ経験を積む。脱退後SAMBAの魅力に取り付かれ、浅草SAMBA CARNIVALに参加を始める。2007年には一ヶ月間BRASIL、RIO DE JANEIROに渡り、CARNIVALにも参加。現地の生活や風や海を感じ、共に演奏することを志して大きなことを学ぶ。BRASILやJAZZの持つ特徴を忘れることなく垣根を越え、自分自身の心の導くままに歌を歌っている。現在は様々なミュージシャンと演奏し、より深い自分だけの歌を探している。音とリズムと心にはいつも正直でいたい。